

■被災者支援のための講演事業

『被災者の声を聞こう！』 プレスリリース

2011年3月11日に起こった東日本大震災では、地震だけでなく、津波・原発事故・風評などの被害を受けたため、家や家族、職場、仕事さえも奪われてしまった人が少なからずいらっしゃいます。現在、復興に向けて、被災地以外の県外から多くの雇用支援が生まれていますが、その一方で孤児・妊婦・シングルマザー・在日外国人など、さまざまな事情で仕事に就きにくい方もたくさんいらっしゃいます。

社会起業を取材してきたフリーライターの**今一生**(45歳)は、被災者の中でも「雇用弱者」の方々に仕事を提供できないかと考えました。かといって、彼らの中には暮らしていけるだけの収入が得られる資格や技術が乏しい方が多く、また経済的に困窮している被災地の状況を見ると職業訓練の時間も場所もありません。

しかし、彼らには、世界が驚くような未曾有の大震災を生き延びたという体験があります。それは、苦しんだ当事者である被災者自身が苦しんで得た固有の資産です。

そこで、「**被災者＋被災地のフリージャーナリスト(あるいは被災地で支援活動の最前線で働き続けている NPO スタッフ)**」という組み合わせで日本各地や海外に足を運び、被災地の現状や防災の知恵、復興支援のためのニーズについて話す講演を売り出す事業を始めることにしました。

私たちが売るのは、「被災者に対する同情」ではありません。あくまでも被災者の方が震災から学びとった価値です。この講演事業では、被災地にある NPO が地元の被災者とフリージャーナリストをマネジメントし、彼ら自身が書いた「**被災体験記**」や**被災地の画像**をプロの編集者が商品価値のある内容へ洗練させた上で、イベント主催者(例:学校、財団、企業、自治体など)に営業します

その収益から講演料を被災者と被災地のジャーナリスト(もしくは被災地の NPO のスタッフ)へ、そしてマネジメント料を被災地の NPO にお支払いします(※東京の場合のみ、避難・疎開されてきた被災者の方と彼らを取材中のジャーナリストになります)。

震災のニュースが日を追って風化しつつある今、世界の多くの市民に被災地の現実を知っていただくことで、減りつつある支援を新たに増やすチャンスにしたいです。

この講演は、多くの方々にとって今後の防災や被災地の復興支援のあり方を考える上で重要な知恵を共有できる絶好のチャンス。企業にとっては、復興支援ビジネスを考える上で大きなヒントを学べます。ぜひお早めに取材してください。

【講演申込】 <http://hisaisha-voice.blogspot.com/>

【お問い合わせ】 今一生(こんいっしょう) Mail: conisshow@gmail.com

TEL: **090-7802-3065** (受付: 正午~PM10:00) Skype: **con-isshow**

■今一生（こん・いっしょう）Profile

1965年、群馬県生まれ。

早稲田大学第一文学部除籍。コピーライターを経て1990年からフリーライター&編集者。

1997年、親から虐待された人たちから公募した手紙集『日本一醜い親への手紙』3部作をCreate Media名義で企画・編集し、文庫版も含め30万部のベストセラーにして「アダルト・チルドレン」ブームを作り、芥川賞作家の村上龍氏から対談を申し込まれる（村上龍・対談集『最前線』に収録）。

99年に被虐待児童とDV妻が経済的かつ合法的に自立するための支援本『完全家出マニュアル』（同）を発表。そこで造語した「プチ家出」は流行語になり、問題提起として話題に。その後、家出できない被虐待児童取材し続け、彼らに自傷行為や自殺未遂の経験者が多いことから、15年以上の長きにわたり、300人以上の自殺経験者たちと付き合う取材を重ねる。

その後、自殺の誘因となるさまざまな社会的課題に対してビジネスの手法で解決していく「社会起業家」の働き方に注目し、事業型NPOを中心とする社会起業家の精力的に取材を続け、日本初の「県別・社会起業家リンク集」を作成。

2007年、東京大学の学生自治会から自主ゼミの講師に招かれ、1年間社会起業を教える。08年7月、『社会起業支援サミット』を早稲田大学で開催、全国から社会起業家10団体と市民300人を動員し、社会起業家の認知向上を支援。09年は全国の大学生に地元での同サミットの開催を呼びかけ、27都道府県で開催。

著書に、社会学者の宮台真司や作家の田口ランディの各氏と対談した『家族新生』（ワニブックス）、『社会起業家に学べ！』（アスキー新書）、三浦展や門倉貴史の各氏と対談した『親より稼ぐネオニート／「脱・雇用」時代の若者たち』（扶桑社新書）他多数。国内外の新聞・テレビ・雑誌でのコメント、講演多数。

近年は、授乳服メーカー「モーハウス」のイベント応援基金の選考委員や、親元や学校に居場所を感じられない若者たちの経済的自立を支援する福岡の一般社団法人ストリート・プロジェクトの理事を務めるなど、非営利の社会貢献事業の実践に及ぶ。社会貢献雑誌『オルタナ』『アイソス』『月刊 高校教育』『月刊 生徒指導』『放送文化』『サンデー毎日』などの雑誌で連載中。



《公式サイト》 www.createdmedia.co.jp